

# 後年度・中期目標事業沖繩振興特別推進市町村交付金事業 成果一覽

令和2年9月

那覇市	1	嘉手納町	13
宜野湾市	3	北谷町	14
石垣市	3	北中城村	14
浦添市	4	中城村	14
名護市	5	西原町	-
糸満市	6	与那原町	15
沖繩市	6	南風原町	16
豊見城市	6	渡嘉敷村	16
うるま市	7	座間味村	-
宮古島市	8	粟国村	17
南城市	-	渡名喜村	17
国頭村	9	南大東村	17
大宜味村	10	北大東村	18
東村	10	伊平屋村	18
今帰仁村	10	伊是名村	18
本部町	10	久米島町	19
恩納村	-	八重瀬町	-
宜野座村	11	多良間村	19
金武町	11	竹富町	19
伊江村	11	与那国町	21
読谷村	12		

# 後年度・中期目標事業沖繩振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
01 那覇市	後年度	桜の名所づくり事業	H24 ～ H29	日本一早い沖縄県の桜まつりが那覇市首里地区においても実現し、観光客の誘客・まちの活性化を図るため、桜の名所として寒川緑地に桜を14本植栽する。	R1	観光客を含む来園者へのアンケートを実施し、観光地としてふさわしい景観であるか 80%以上	観光客を含む来園者へのアンケートを実施し、観光地としてふさわしい景観であるか 88%	◎
01 那覇市	後年度	那覇市宮奥武山野球場イメージアップ事業	H28 ～ H30	奥武山野球場のプロ野球キャンプ及び公式戦を継続実施し観光誘客を図るとともに、野球の全国・九州等大規模大会の開催を誘致するため、大屋根鉄骨部分の錆除去・防食工事及びイメージアップ塗装工事(第1期)、工事監理業務委託(第1期)を行う。(第1期:ライトスタンド側の工事)	R1	・読売巨人軍那覇キャンプ延べ見学者数: 96,200人 ・プロ野球公式戦1試合入場者数: 13,300人 ・全国・九州等大規模大会の開催誘致: 3大会	・読売巨人軍那覇キャンプ延べ見学者数: 127,188人 ・プロ野球公式戦1試合入場者数: 17,309人 ・全国・九州等大規模大会の開催誘致: 3大会	◎
01 那覇市	後年度	なは産業支援センター機能強化事業(駐車場整備)	H28 ～ H30	本市の産業振興を支える企業の育成支援施設「なは産業支援センター」の機能として不足している駐車場(自走式駐車場)の機能拡充を図る。	R2	駐車場が整備されたことにより利便性が確保されたか 80%以上	駐車場が整備されたことにより利便性が確保されたか 未実施(令和2年度実施予定)	未
01 那覇市	後年度	国際通りトランジットモールビジョンづくり支援事業	H29	観光客の誘客及び地元客の呼び戻しを図り、中心商店街の賑わいを創出するため、今後の国際通りトランジットモールのあり方について、アンケート調査や商店街等関係者による会議等を開催、ビジョンを策定し、商店街の活性化と商業の振興を図る。	R3	賑わい創出に向けた取り組み(オープンカフェや夜市等)の実証実験を行い、取り組みに対する満足度をアンケート調査を実施し、満足度80%	-	-
01 那覇市	後年度	商店街アーケードビジョンづくり支援事業	H29	誰もが安全・安心・快適に買い物や散歩が楽しめる魅力ある中心商店街の商環境整備のため、老朽化したアーケードの権利関係や現地調査、関係者へのアンケート調査などを行い、商店街関係者によるアーケードビジョンづくりを支援する。	R5	平和通り商店街の老朽化したアーケードの撤去、代替案の整備開始	-	-
01 那覇市	後年度	亜熱帯庭園都市形成推進調査(道路)	H24 ～ H30	長期未着手状態にある大中町内細部街路(19路線)について、現地調査や地域住民との懇談会を実施し、地域の歴史的な魅力を活かした安心・安全な歩行空間の確保に向けた都市計画決定の見直し方針を定める。	R1	当該事業の実施後における都市計画変更に向けた手続きを進める中で、変更案に対する地域住民等の理解度 80%以上	当該事業の実施後における都市計画変更に向けた手続きを進める中で、変更案に対する地域住民等の理解度 未実施(令和2年度実施予定)	未
01 那覇市	後年度	牧志公設市場(衣料部・雑貨部)活性化基礎調査	H28	牧志公設市場(衣料部・雑貨部)の活性化を図ることを目的とし、施設利用状況等の把握、利用者実態調査等を踏まえ、今後の課題及び方向性を検討するための基礎調査を実施する。	R3	通行量(牧志公設市場衣料部前): 6,000人	-	-

## 後年度・中期目標事業沖縄振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」、「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」、「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
01 那覇市	後年度	冷凍冷蔵コンテナ用電源整備事業	H28 ～ H29	新港ふ頭の国産コンテナターミナルには、冷凍食品等低温輸送用コンテナのため、既存のリーファー電源が設置されているが、年々増大している冷凍冷蔵コンテナ需要に対応するため、さらなる増設を行う。	R3	那覇港のリーファーコンテナの取扱貨物量：76万トン	-	-
01 那覇市	後年度	那覇港(泊ふ頭)陸上電力供給施設整備事業	H28	離島航路の維持・改善及び離島振興に向けて、排出ガス削減、騒音抑制を図るなど良好な港湾環境の改善をはかるため、泊ふ頭に陸上電力供給施設を整備する。	R3	船舶運航事業者へアンケートを行い、観光客を受け入れる港として快適な環境が確保されていると感じるか 80%以上	-	-
01 那覇市	後年度	亜熱帯庭園都市の道づくり基礎調査事業	H27 ～ H30	観光客が道路を安全で快適に移動できるよう、道路の環境改善を図るため、基礎調査を行う。	R4	観光客へのアンケート調査等を実施し、安全・快適に移動できるか(80%以上)	-	-
01 那覇市	後年度	観光危機管理推進事業	H30	観光危機発生時における観光客の安全確保を図るため、「那覇市観光危機管理計画」を策定する。	R1	策定した観光危機管理計画を活用した危機管理体制の運用訓練の実施(1回以上/年)	策定した観光危機管理計画を活用した危機管理体制の運用訓練の実施:2回	◎
01 那覇市	後年度	景観まちづくり推進事業	H24 ～ H30	沖縄らしい風景づくりを促進し、観光地の景観としてふさわしいデザインを創出するため、公共デザインマニュアル案を作成する。	R3	観光客のアンケート調査を実施し、観光地の景観としてふさわしいデザインであると感じるか(80%以上)	-	-
01 那覇市	後年度	まちなか商店街再生プロジェクト事業	H29 ～ H30	那覇市の中心商店街への来街者増加を図るため、道路を活用したまちなか商店街の再生計画案を作成する。	R2	通行人数 140,000人	-	-
01 那覇市	後年度	那覇市ぶんかテンプス館施設機能強化事業	H30	利用者のための空調設備機器を整備することにより、利用者の快適性の向上を図る。	R1	空調設備機器の機能強化により快適性が向上されたか(80%以上)	空調設備機器の機能強化により快適性が向上されたか:94.4%	◎
01 那覇市	後年度	電子黒板等整備事業	H24 ～ H30	将来の沖縄振興に資する人材の健全育成と教育の振興・学力向上のため、小学校に電子黒板を整備、同時に貸出用タブレット端末を整備し、児童の興味関心及び集中力を高め、分かりやすい授業環境を整える。	R1	・電子黒板を導入した学年の児童へのアンケート調査を実施し、授業がわかりやすくなった(80%以上) ・電子黒板を導入した学年の教師へのアンケート調査を実施し、電子黒板等の使用により効果的・効率的な板書や資料提示ができた(80%以上)	・電子黒板を導入した学年の児童へのアンケート調査を実施し、授業がわかりやすくなった:90.2% ・電子黒板を導入した学年の教師へのアンケート調査を実施し、電子黒板等の使用により効果的・効率的な板書や資料提示ができた:77.9%	○
01 那覇市	中期的	那覇港総合物流センター整備事業	H25 ～ H30	物流拠点の形成を図ることにより、取扱貨物の増大に向けて那覇港総合物流センターを整備する。	R1	那覇港総合物流センターの取扱貨物量の増4,580TEU/年間	那覇港総合物流センターの取扱貨物量の増5,550TEU/年間	◎

## 後年度・中期目標事業沖縄振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
02 宜野湾市	後年度	ベイスターズキャンプ支援事業	H30	ブルペンと内野練習場を整備し、継続して合宿を受け入れる体制を確保することで、プロ野球キャンプの実施及びスポーツ合宿の実施増加に繋げる。	R1	・プロ野球キャンプ実施件数 1件 ・スポーツ合宿誘致件数 3件	・プロ野球キャンプ実施件数 1件 ・スポーツ合宿誘致件数 1件	△
02 宜野湾市	後年度	防災情報システム整備事業	H29 ～ R3	大規模災害時において、避難所間の情報収集、共有を的確に行い、適切な被災者支援を図るため、高速無線LANネットワークの構築や沿岸監視カメラの設置等、総合的な防災情報システムの整備を行う。	R2	整備した防災情報システムを活用した避難訓練(3回以上/年)を実施することにより、本事業のあり方について検証する。	-	-
02 宜野湾市	後年度	宜野湾市情報通信産業振興施設設計画策定事業	H30	平成29年度実施「宜野湾市情報通信産業振興施設PFI基本構想・事業手法検討調査業務」の結果をふまえ、施設の基本計画の検討及び民間活用型事業としての事業推進のための準備を行う。	R3	基本構想に基づき整備した情報通信産業振興施設における入居事業者数:3件	・事業候補用地にある既存施設の事業廃止、建物の建替えに係る整備スケジュール等の把握に努め、用地確保に向けた各調整を行った。	-
02 宜野湾市	後年度	宜野湾市都市構造基礎調査事業	H30	沖縄の抱える様々な特殊事情(軍用地接收)により、本市の都市構造は市街化が歪んだ形で進展し、不健全な都市構造にならざるを得なかった。普天間飛行場など返還跡地も含めた本市全体の土地利用の基本方針、交通施設、公園緑地の配置方針や市街地の整備方針、自然環境の保全等を定めるための基礎調査を行う。	R1	基礎調査結果を基に策定した各分野での計画にて設定した指標を目標とした、各種施策を実施する。	基礎調査結果を基にした関連計画を未策定のため未実施	未
02 宜野湾市	後年度	宜野湾市産業振興計画策定事業	H30	平成26年度から平成30年度までの宜野湾市産業振興計画の効果等をふまえ、更なる産業振興を図るため、次の5年間の新たな産業振興計画を策定する。	R1	策定した産業振興計画の中で、産業振興に係る指標を設定し、当該指標を目標とした産業振興施策を実施する。	計画中に掲げる目標値(R1年度目標値)の達成率:85.6%	○
03 石垣市	後年度	石垣市資源循環アイランド推進事業	H25 ～ H30	離島である本市が掲げる『環境と共生したエコアイランド』を実現し循環型社会の形成を図るため、生ごみ等を原料にしたメタン発酵プラントの導入に向けた検討及び実証を行う。	R1	民間1社による設備導入	0社	未
03 石垣市	後年度	花満開いしがきじま事業	H29	石垣市の観光地としての新たな魅力の創出を図るため、都市公園等などの公共空間において、さくら等の植樹を行う。	R1	魅力が創出されたか(80%以上)を含め、アンケートで検証する。	魅力が創出されたか(80%以上)を含め、アンケートで検証:100%	◎
03 石垣市	後年度	美ら星ゲート構築事業	H28 ～ H29	市街地において、「星の島」としての石垣島の魅力を発信し、観光誘客を図るため、プラネタリウム(多目的ドームシアター)の設置に係る実施設計、コンテンツ制作及び建築工事を行う。	R1	年間入場者数:45,000人	年間入場者数:8,000人	未

## 後年度・中期目標事業沖縄振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」、「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」、「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
03 石垣市	後年度	島野菜・ハーブの生産、加工、販売推進事業	H28 ～ H29	島由来の野菜やハーブの安定的な生産を推進し、新規加工商品の開発や販路拡大に向けた環境整備と体制の構築を目指すため、生産農家、流通業者、加工事業者等関係機関と協働し、方向性及び取り組み内容を盛り込んだ振興プランを策定する。	R4	野菜・ハーブの生産者戸数84戸	野菜・ハーブの生産者戸数61戸	-
04 浦添市	後年度	浦添市観光振興計画策定事業	H28 ～ H29	顕著に推移する沖縄県の観光産業を下支えするため、浦添市の観光振興の指針となる浦添市観光振興計画策定を行う。	R2	浦添市観光振興計画に基づき、観光誘客を目的とした事業の実施につなげる。	-	-
04 浦添市	後年度	浦添市企業立地・雇用施策方針策定事業	H28 ～ H29	本市の雇用環境の状況を把握し、雇用施策の改善・充実を図るため、社会的に流動的な雇用情勢に対応した中期的計画となる「企業立地雇用施策方針」を策定する。	R2	企業立地雇用施策方針に基づき、雇用施策の実施につなげる。	-	-
04 浦添市	後年度	那覇港(泊ふ頭)陸上電力供給施設整備事業	H28	観光客を受け入れる港として、停泊中の船舶からの排気ガス削減や騒音を抑制し、快適な環境の確保を図るため、泊ふ頭に陸上電力供給施設を整備する。	R3	観光客を受け入れる港として快適な環境が確保されていると感じるか(80%以上)を含め、船舶運航事業者へのアンケートを行い、本事業のあり方を検証する。	-	-
04 浦添市	後年度	冷凍冷蔵コンテナ用電源整備事業	H28 ～ H29	新港ふ頭の国際コンテナターミナルに設置されている、冷凍食品等低温輸送用コンテナのためのリーファー電源を増設することで、年々増大している冷凍冷蔵コンテナ需要に対応し、那覇港における取扱貨物量の増加を図る。	R3	那覇港のリーファーコンテナの取扱貨物量の増加 76万トン	那覇港のリーファーコンテナの取扱貨物量の増加 75万トン	-
04 浦添市	後年度	創業者定着支援事業	H28 ～ H30	市内における創業者数の増加及び安定的な継続創業を図るため、創業・ビジネス情報を発信するとともに、創業・ビジネスコンテストで選定した事業者に対し、専門家によるハンズオン支援、セミナー開催等による創業者等を支援する。	R1 ・ R6	【R1成果目標】 創業者数:3社以上  【R6成果目標】 定着率:60%以上  ※定着率とは、本事業で支援した事業者が、支援終了5年後も市内で事業を行っている割合を表す。	創業者数:13社	◎

## 後年度・中期目標事業沖縄振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
04 浦添市	後年度	那覇港総合物流センター整備事業	H25 ～ H30	本県の生活・産業物資の輸送の大部分を担う港湾物流機能を改善し、従来型物流の高度化を図り、さらに付加価値型ものづくり産業の集積などの国際物流拠点の形成を図るため、那覇港総合物流センターの物流棟本体及び電気工事、機械工事、地盤改良工事を行う。	R1	那覇港総合物流センターの取扱貨物量 4,580TEU	那覇港総合物流センターの取扱貨物量 5,550TEU	◎
04 浦添市	後年度	臨港道路浦添線無電柱化事業	H27 ～ H29	那覇港浦添添頭地区の臨港道路浦添線において、観光立県沖縄のウォーターフロント景観の向上及び災害に強い安心安全な港まちづくりに向けて、無電柱化を行う。	R1	・整備箇所における台風等自然災害による断線被害:0件/年	・整備箇所における台風等自然災害による断線被害:0件/年	◎
05 名護市	後年度	やがじ夢の懸け橋事業	H27 ～ H29	屋我地地域において、地域観光産業の振興や定住促進を図るため、同地域におけるツーリズムに関しての地域振興計画を策定するとともに、民泊事業者と連携したモニターツアー、ワークショップ等を実施する。	R3	修学旅行受入校数:140校	修学旅行受入校数:82校	-
05 名護市	後年度	名護市食鳥処理施設整備事業	H28	新たな食鳥処理施設の整備に必要となる用地を取得することによる事業環境の整備を通じ、食肉処理施設の再編や県内鶏肉の衛生・品質管理の高度化を促進する。	R5	処理羽数:17,000羽/日	処理羽数:13,503羽/日	-
05 名護市	後年度	名護・やんばるの自然と文化拠点施設整備事業	H30 ～ R3	名護・やんばるの観光振興及び自然や文化の保全・継承に寄与することを目的として、地域の自然と文化に関する情報収集、発信、研究などの機能を備えた総合的なガイダンス拠点となる施設を整備する。	R4	利用客数 2.4万人以上	-	-
05 名護市	後年度	国立療養所沖縄愛楽園土地等利活用基本計画策定事業	H30	名護市屋我地地区の地域振興に向けて、国立療養所沖縄愛楽園の未利用の土地等を利活用するための計画を策定する。	R1	策定した基本計画の中で、未利用の土地等の利活用方法を設定し、当該利活用方法に則った土地利用施策を実施する。	策定した基本計画に基づき、R1年度は協議会の設置・開催、事業化に向けた準備作業、関係機関の事務協議、民間事業者とのサウンディング調査を実施した。	◎
05 名護市	後年度	轟の滝周辺整備事業	H24 ～ H29	貴重な文化財である轟の滝の豊かな自然環境を保全・活用し、魅力ある観光スポットとして、まちの活性化、観光振興に繋げるため、やすらぎと潤いある自然空間の実現に向けて整備する。	R1	年間入場者数:26,000人	年間入場者数:56,271人	◎
05 名護市	後年度	観光地周辺環境整備事業	H29	市内観光地であり、国指定天然記念物となっている「嘉陽層の褶曲」に公衆トイレを整備し、観光客の利便性と満足度を高める。	R2	市内観光施設入込客数(暦年):5,501千人	市内観光施設入込客数(暦年):4,935千人	-

# 後年度・中期目標事業沖繩振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
06 糸満市	後年度	歴史記録資料デジタル化事業	H30	市の歴史・文化の継承を図るため、本市・沖縄の歴史・文化に関する資料をデジタル化して保存・再生を容易にし、『糸満市史』編集や展示等で活用する。	R1	ホームページで公開した市の歴史・文化に関する資料のアクセス数340件	ホームページで公開した市の歴史・文化に関する資料のアクセス数237件	○
06 糸満市	後年度	観光地危機管理対策事業	H28 ～ H30	大型ホテルやマリンレジャー施設、道の駅等の観光施設が立地する本市にあつて、観光客の増加に伴う事故や不測の事態へ対処できる体制の確立のため、防災拠点及び指定避難所の非常食・毛布・炊出し資器材等の整備を行う。	R2	整備した資器材等を活用した避難防災訓練(1回以上/年)を実施することにより、本事業のあり方について検証する。	整備した資器材等を活用した防災訓練(1回以上/年)を実施	◎
06 糸満市	後年度	戦争遺構保全・活用整備事業	H26 ～ R3	平和教育・平和観光に役立てるため、戦争遺構の整備等を行う。	R1	概要版を設置した戦争遺跡を活用した児童生徒への平和学習会参加人数150人	概要版を設置した戦争遺跡を活用した児童生徒への平和学習会参加人数:283人	◎
07 沖繩市	後年度	コミュニティーパーク整備事業	H24 ～ H28	市民の健康づくりや地域住民相互の交流等を促進するため、地域住民の意見・ニーズを反映させた実施設計をもとに、誰もが快適に健康づくりを行える公園整備工事を実施する。	R1	公園利用者を対象に、当該公園を利用することで、疾病予防や健康増進につながったか、アンケートを実施し効果を確認する。 ・肯定的な回答 80%(H30年度) 80%(R1年度)	公園利用者を対象に、当該公園を利用することで、疾病予防や健康増進につながったか ・肯定的な回答 - (H30年度) 89.7%(R1年度)	◎
07 沖繩市	後年度	音楽産業拠点施設機能強化事業	H30	ミュージックタウン音市場の音響設備の機能強化を行い、沖縄民謡や戦後のアメリカ文化の影響によるロックやジャズなどの音楽イベントを開催し、観光客の誘客を図る。	R1	音市場ホール来場者数50,000人以上	音市場ホール来場者数48,654人	○
07 沖繩市	後年度	水難救助支援車整備事業	H30	水難救助支援車を整備し、クルーズ船の寄港のより外国人観光客が多く訪れる中城湾港泡瀬地区での水難事故等への防災体制の向上を図る。	R1	本水難救助支援車を活用した水難救助訓練の実施(18回/年)により、水難救助支援車の活用方法を検証していく。	本水難救助支援車を活用した水難救助訓練の実施 31回/年	◎
07 沖繩市	後年度	戦後文化資料等展示事業	H24 ～ H29	戦後の新聞や写真をデジタル化し、コンテンツの拡充を図るとともに、沖縄市戦後文化資料展示室の移転先の施設改修を実施することで、沖縄の戦後史を学ぶ場として、修学旅行生や観光客等の誘客を図る。	R1	・ヒストリート来室者数21,600人 (うち修学旅行生3,200人)	・ヒストリート来室者数25,077人 (うち修学旅行生6,961人)	◎
08 豊見城市	後年度	籠(饒波)修復事業	H27 ～ R1	豊見城市の葬制文化を伝える資料である「籠」を修復し、企画展等で活用することで、地域独自の民俗・祭祀・葬制等といった地域文化の伝承を図る。	R1	「籠」本体の修復完了後の企画展示会の来場者数:600人	「籠」本体の修復完了後の企画展示会の来場者数:838人	◎

## 後年度・中期目標事業沖繩振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
08 豊見城市	後年度	戦争体験等映像化事業	H29 ～ H30	沖縄戦終結から72年が経過し、体験者が自ら語り記憶を継承することが困難になってきている。そこで、沖縄戦を含めた「アジア・太平洋戦争」の体験者取材し、個々の証言等を基に映像資料を編集制作し、平和を伝える学習材を整備する。	R1	整備した学習材を活用した企画展示会の来場者数: 600人	整備した学習材を活用した企画展示会の来場者数: 995人	◎
08 豊見城市	後年度	豊見城総合公園体育施設機能強化事業	H28 ～ H30	オリンピック・パラリンピック等のスポーツコンベンション誘致を推進するため、施設の現状と課題を抽出し、誘致に必要な条件を整理し計画的な整備を行う。	R1	合宿誘致件数: 5件	合宿誘致件数: 7件	◎
08 豊見城市	後年度	低炭素社会構築事業(都市公園省エネ設備導入促進事業)	H29	公園内の照明を環境負荷の少ないLED照明に切り替え、温室効果ガス排出の抑制を図る。	R1	豊崎海浜公園及び豊見城総合公園内照明灯のLED照明への取り換え完了	豊崎海浜公園及び豊見城総合公園内照明灯のLED照明への取り換え完了	◎
09 うるま市	後年度	うるま市スポーツ推進計画策定事業	H30	生涯スポーツによる住民の健康増進、競技スポーツによる青少年の人材育成、及びスポーツ交流による観光振興を図ることを目的とし、「うるま市スポーツ推進計画」を策定する。	R1	スポーツキャンプや合宿、スポーツイベント等誘致数: 11件以上	スポーツキャンプや合宿、スポーツイベント等誘致数: 10件	○
09 うるま市	後年度	具志川多種目球技場芝整備機材導入事業	H30	芝整備機材を調達し、年間を通して「良好な芝生環境」を整備することにより、サッカーキャンプ誘致を図る。	R1	サッカーキャンプ誘致数: 1件以上	サッカーキャンプ誘致数: 3件	◎
09 うるま市	後年度	スポーツコンベンション誘致戦略策定事業	H30	スポーツキャンプの誘致等を目的とし、本市が所有する各種体育施設等を活用したスポーツコンベンション誘致戦略を策定する。	R1	スポーツキャンプや合宿、スポーツイベント等誘致数: 15件以上	スポーツキャンプや合宿、スポーツイベント等誘致数: 10件	未
09 うるま市	後年度	地域Wi-Fi環境整備事業	H30	無線アクセスポイントを整備し、外国人観光客の利便性向上を図る。	R2	外国人観光客に対して、Wi-Fiの満足度(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する	未実施	未
09 うるま市	後年度	島しょ地域超高速ブロードバンド整備事業	H30	島しょ地域(平安座・宮城・伊計・浜比嘉)における超高速ブロードバンド基盤整備率をうるま市内と同程度まで向上させ、ICT利用による利便性を全国的に等しく享受する。	R1	島しょ地域(平安座・宮城・伊計・浜比嘉)における超高速ブロードバンドサービス利用率20%以上	島しょ地域(平安座・宮城・伊計・浜比嘉)における超高速ブロードバンドサービス利用率21.5%	◎



## 後年度・中期目標事業沖縄振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」、「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」、「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
10 宮古島市	後年度	ムイガー展望施設整備事業	H29 ～ H30	宮古島南部の景勝地であるムイガー断崖において、観光客の利便性の向上を図るため、展望施設の階段・手すり・ベンチ等を整備する。	R1	観光客等を対象に、観光地としての魅力利便性の向上が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	観光客等を対象に、観光地としての魅力利便性の向上が図られたかについて肯定的な回答97.7%	◎
10 宮古島市	後年度	多言語観光案内サイン整備事業	H29 ～ H30	増加する外国人観光客の利便性・安全性の確保を図るため、多言語による観光案内サイン、安全確保・遊泳等に関する注意喚起サインを整備する。	R1	クルーズ船客アンケートによる多言語案内表記の満足度(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方について検証する。	クルーズ船客アンケートによる多言語案内表記の満足度67.3%	○
10 宮古島市	後年度	下地島空港観光アクセス調査事業	H30 ～ R1	ターミナルの供用開始により、新たに多くの観光客利用が見込まれる下地島空港の利便性向上を図るため、市内要所との交通アクセスの確保に向けた調査を実施する。	R1	下地島空港⇄市内要所間のアクセスが可能となる2次交通を1ルート以上確立する。	下地島空港⇄市内要所間のアクセスが可能となる2次交通を2ルートの確立。	◎
10 宮古島市	後年度	水難救助体制強化整備事業	H29 ～ H30	入域観光客数の増加に伴い発生が懸念される水難事故等へ対応するため、水難救助車・災害支援車を導入する。	R1	本水難救助車と災害支援車を活用した水難救助訓練の実施(33回/年)による、水難救助車等の活用方法の検証。	本水難救助車と災害支援車を活用した水難救助訓練の実施36回/年	◎
10 宮古島市	後年度	地域連携小中学校吹奏楽環境整備事業	H30	市内小中学校の吹奏部において、楽器が不足しており、十分な練習活動ができない状況にある。必要な楽器を整備し、児童生徒の意欲向上及び地域活性化を図る。	R1	・楽器の整備により部員の音楽に対する意欲が向上したか(80%以上)を含め、部活動のあり方についてアンケート調査により検証する。 ・楽器購入後に参加した複数のイベントへの総来場者数:6,000	・楽器の整備により部員の音楽に対する意欲が向上したかについて肯定的な回答92.8% ・楽器購入後に参加した複数のイベントへの総来場者数:7,300人	◎
10 宮古島市	後年度	「テレワーク@宮古島」事業	H28 ～ H30	情報通信関連企業の誘致により新規就業者を創出するため、宮古島市へ開設意欲のある企業への訪問による誘致活動、現地ツアー開催による島内企業とのビジネスマッチング等を実施する。	R1	・新規就業者4人以上	・新規就業者1人	未
10 宮古島市	中期的	スポーツ観光交流拠点整備事業	H24 ～ H28	観光入域客数が年々増加する中、雨天時の観光客の活動範囲が限られており、より快適な観光振興を推進するため、年間を通して、軽スポーツが楽しめる、地域の伝統文化に親しむことができる全天候型のスポーツ・伝統文化交流拠点施設を整備した。	R1	年間利用者数74,000人	年間利用者数77,348人	◎

## 後年度・中期目標事業沖繩振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
12 国頭村	後年度	国頭らしい景観計画策定事業	H28 ～ H29	「国頭らしい景観計画」を策定するため、説明会又はパブリックコメントの実施、委員会の開催、景観行政コーディネーター県外研修参加を行い、自然豊かな地域の保全・活用や国立公園・世界自然遺産登録の動きに対応する。	R1	魅力的な観光地としての景観形成を図られたか(80%以上)を含め、観光客や村民等へのアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	観光客や村民等へのアンケートにより、魅力的な観光地としての景観形成を図られたかの割合 82%	◎
12 国頭村	後年度	やんばるの森拠点施設活用推進事業	H29	国頭村森林公園の顧客ニーズの把握、施設の課題調査、施設の管理運営方法の提案、今後の施設整備の概略予算の算定を行い、やんばるの森の拠点施設として活用するための管理運営方針を策定する。	R3	国頭村森林公園の来場者数:24,317人以上	国頭村森林公園の来場者数:17,203人	-
12 国頭村	後年度	奥区地域づくり計画策定事業	H27 ～ H29	「地域づくりゆんたく会」の開催やツアープログラムメニューの開発による具体的手法の確立及び実施体制の構築を図るため、事業の具体化に向けた取組の実施や3ヶ年の事業を通じて得られた地域づくりにおける課題等を整理する。	R3	イベント・ツアーへの参加者数:272人以上	イベント・ツアーへの参加者数:0人	-
12 国頭村	後年度	国頭らしい景観形成事業	H28 ～ H30	自然や歴史等風景を生かした魅力的な観光地としての景観形成を図るため、景観計画に基づいた、景観ガイドラインを作成する。	R1	魅力的な観光地としての景観形成を図られたか(80%以上)を含め、観光客や村民等へのアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	観光客や村民等へのアンケートにより、魅力的な観光地としての景観形成を図られたかの割合 82%	◎
12 国頭村	後年度	観光拠点施設機能強化事業	H25 ～ H30	観光拠点である「道の駅」ゆいゆい国頭において、イベント開催等の増加を図り、観光誘客につなげるため、膜張り屋根施設を整備する。	R1	膜張り屋根施設を活用したイベントの来場者数 6,204人以上	膜張り屋根施設を活用したイベントの来場者数 7,160人	◎
12 国頭村	後年度	国頭村観光危機管理計画策定事業	H30	災害時における観光客の安全確保を図るため、観光危機管理計画を策定する。	R1	策定した観光危機管理計画を活用した避難訓練(1回以上/年)を実施することにより、当該計画について検証する。	策定した観光危機管理計画を活用した避難訓練の回数:0回	未
12 国頭村	後年度	国頭村減災地域社会形成事業	H24 ～ R3	災害時において村民及び観光客等の安全を確保するため、防災マニュアル(BCP)の改定及び集落別減災計画を作成する。	R1	整備した防災マニュアル及び集落別減災計画を活用した避難訓練(10回以上/年)を実施することにより、マニュアル・計画のあり方について検証する。	整備した防災マニュアル及び集落別減災計画を活用した避難訓練の回数:14回	◎
12 国頭村	後年度	消防救助艇及び資機材搬送車整備事業	H30	水難事故等における住民や観光客等の安全の確保を図るため、救助艇・牽引車両等を整備する。	R1	水難救助訓練(1回以上/月)を実施することにより、消防救助艇及び資機材搬送車の活用あり方について検証する。	水難救助訓練:1. 75回/月	◎

## 後年度・中期目標事業沖縄振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
13 大宜味村	後年度	消防救助艇及び資機材搬送車整備事業	H30	住民や観光客等の安全を確保するため、国頭地区消防本部に消防救助艇及び資機材搬送車を整備する。	R1	・水難救助訓練の実施(1回以上/月)	・水難救助訓練の実施(1.75回/月)	◎
13 大宜味村	後年度	観光道路及び危険箇所減災対策事業	H27 ～ H29	観光客の交通障害の防止を図るため、交通障害を引き起こす恐れのある雑木や高木の枝の伐採を行う。	R1	伐採箇所における観光客の木による交通障害発生件数 0件	伐採箇所における観光客の木による交通障害発生件数 0件	◎
14 東村	後年度	地域活動拠点活性化事業	H27 ～ H29	地域活動拠点施設を整備し、本村が進めている体験滞在交流型観光の促進を行うことにより観光誘客を図る。	R1	地域活動拠点施設利用者数3,296人	地域活動拠点施設利用者数2,615人	○
14 東村	後年度	消防救助艇及び資機材搬送車整備事業	H30	水難事故等による住民や観光客等の安全を確保するため、消防救助艇及び資機材搬送車を国頭地区消防本部へ整備する。	R1	水難救助訓練(1回以上/月)を実施することにより、消防救助艇及び資機材搬送車の活用のあり方について検証する。	水難救助訓練(1.75回以上/月)を実施した。	◎
15 今帰仁村	後年度	今帰仁城跡関連施設サイン等設置事業	H30 ～ R1	外国人観光客の利便性を確保する為、案内板の設置や、今帰仁城跡駐車場の区画線を引く等、受け入れ環境の整備を行う。	R1	外国人観光客の利便性が確保されたか(80%以上)を含め、外国人観光客等に対するアンケートにより本事業を検証する。	外国人観光客の利便性が確保されたか(80%以上)を含め、外国人観光客等に対するアンケートにより本事業を検証:80%	◎
15 今帰仁村	後年度	今帰仁村観光リゾート振興計画	H30	観光振興を図る為、今帰仁村の観光の現状や課題の分析などを行い、観光振興事業の指針となる今帰仁村観光リゾート振興計画を策定する。	R5	村内主要観光地の入込客数880,000人	-	-
15 今帰仁村	後年度	多言語ガイドブック等作成事業	H30	外国人観光客の利便性の確保を図る為、多言語に対応できる充実した観光案内パンフレット及び観光マップ、PRポスターを作成する。	R1	外国人観光客の利便性が確保されたか(80%以上)を含め、外国人観光客等に対するアンケートにより本事業を検証する。	外国人観光客の利便性が確保されたか(80%以上)を含め、外国人観光客等に対するアンケートにより本事業を検証:85%	◎
15 今帰仁村	後年度	地域活動拠点活性化事業	H29	地域活動・地域行事・伝統文化等芸能の場や景観を利用した、都市及び観光客との交流拠点としての利用を図り、交流体験の場となる施設を整備する。	R1	年間施設利用者:1,480人	年間施設利用者:10,200人	◎
16 本部町	後年度	園芸農業防災施設整備事業	H24 ～ R1	沖縄県では台風の襲来や病害虫の発生により農作物の被害が大きくなるため、農家経営に対する不安や生産意欲の減退などの課題がある。そこで、農業者等で組織する団体へ補助金を交付し、台風対策用のハウス等の施設の導入を行い、農業生産物の出荷量向上を図る。	R1	にがうり出荷量 1,800kg以上(1棟あたり)	にがうり出荷量 441kg以上(1棟あたり)	未

## 後年度・中期目標事業沖繩振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
16 本部町	後年度	本部町配水安定化事業	H29 ～ H30	水道管理センターの停電による断水をなくし安定的な水の供給を行うため、非常用電源設備を設置する。	R1	停電による断水被害 0件	停電による断水被害 0件	◎
18 宜野座村	後年度	パークゴルフ場施設機能強化事業	H30	観光誘客及び住民福祉の向上を図るため、パークゴルフ場の灌水設備及び放送設備の整備を行う。	R1	観光客、村民年間利用者数 29,700人	観光客、村民年間利用者数 26,657人	○
19 金武町	後年度	金武町ベースボールスタジアム機能高度化事業	H29 ～ H30	金武町ベースボールスタジアムに併設されている投球練習場を人工芝生化することで、利便性向上を図り、プロ野球キャンプの継続受入を図る。また、本球場ベンチ前の人工芝部分を拡張することで土の流出を防ぎ、施設機能高度化を図る。	R2	・プロ野球チームキャンプの受入:2チーム ・アマチュア野球(高校・大学など):1チーム	・プロ野球チームキャンプの受入:1チーム ・アマチュア野球(高校・大学など):3チーム	-
19 金武町	後年度	金武町魅力PR事業	H30	観光誘客及び通過型観光客の金武町周遊を図るためパンフレットを作成・活用し、金武町の魅力をPRする。	R1	・金武町フリーWi-Fiの利用件数 102,965件以上	・金武町フリーWi-Fiの利用件数 72,251件以上	○
19 金武町	後年度	ギンバル海浜公園整備事業	H27 ～ R2	平成23年7月に返還されたギンバル訓練場において田園と海と川を活かしたウェルネスの里をテーマに跡地利用のための整備を進めている。そのギンバル訓練場跡地において、地域住民及び観光客等が安全で快適に利用できる海浜公園を整備し誘客を図る事で、跡地利用を促進し、観光リゾートの実現を目指す。	R4	ギンバル海浜公園の利用者数:20,005人	-	-
20 伊江村	後年度	墓地整備基本計画策定事業	H29	沖縄独自の個人墓地の散在化、土地利用等への支障、景観の悪化を防止するため、現状の調査、許可区域の選定、運営方針等の基本計画を策定する。	R3	令和3年度までに村営墓地の地域選定を実施し、墓地の集約化を目指して指定した墓地での墓地契約8件/年以上を目指す。	令和3年度までに村営墓地の地域選定を実施し、墓地の集約化を目指して指定した墓地での墓地契約3件/年	-
20 伊江村	後年度	鮮魚輸送強化事業	H29	本村で水揚げされる鮮魚類を県内外へ輸送・出荷する為、空輸用のコンテナや、海上輸送用のコンテナ、輸送用活魚タンクコンテナを整備し、漁業振興を図る。	R1	県外への輸送コストの軽減マイナス10円/kg 255円/kg  (参考) H28年度 265円/kg	県外への輸送実績なし	未

## 後年度・中期目標事業沖縄振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
20 伊江村	後年度	伊江村観光振興基本計画策定事業	H29	本村の総合的な観光振興を中長期的に推進していくために基本計画を策定する。 また、伊江村観光振興推進協議会において、村観光の現状と課題の分析、民泊事業、観光資源と特産物や農産物を含めた地域資源の掘り起し、スポーツコンベンションやインバウンド対応など、地域の魅力を最大限に活かした観光戦略を多角的に構築する。	R3	入域観光客数 158,000人/年 (参考) H27年度 136,000人/年	入域観光客数:121,820人	-
20 伊江村	後年度	伊江村観光危機管理計画策定事業	H30	本村に訪れた観光客が災害時、安全に避難することが出来るよう計画を策定し、観光客の受入体制の強化に努める。	R2	策定した観光危機管理計画を策定した避難訓練(1回以上/年)を実施することにより、当該計画について検証する。	策定した観光危機管理計画を活用した避難訓練の回数:1回/年	-
20 伊江村	後年度	伊江村文化等発信拠点施設機能強化事業	H30	質の高い文化芸術公演に触れる機会の確保を図るため、伊江島はにくすにホール施設の音響設備の機能強化を図る。	R1	整備後、村外のイベント会社等が主催する公演数の増 5件	村外のイベント会社等が主催する公演数:1件	未
20 伊江村	後年度	水産物高付加価値化推進事業	H30	伊江村で水揚げされる魚類を中心に鮮度保持向上を目的に、荷捌き施設や漁船等(貸出)にNANOバブル発生装置を整備し、付加価値を付けた出荷や販路拡大を図る。	R1	新規販路拡大 2件	新規販路拡大:0件	未
21 読谷村	後年度	米軍施設返還に伴う雨水排水増加の既設水路現況調査及び排水計画策定事業	H28 ~ H29	読谷村では、返還後の跡地利用計画を策定し土地利用を進めているところであるが、その結果、既設水路の能力を超える排水が流れ込み下流側において、道路冠水や家屋への床上浸水・床下浸水が発生している。これらの既設水路の能力を評価するとともに必要な排水計画を策定することで、返還軍用地の本格的な跡地利用を円滑に実施するための基礎資料とし、生活環境の改善を図る。	R3	計画に基づき設計、工事を着手	-	-
21 読谷村	後年度	トリイ通信施設跡地「大木・大湾地区」区画整理事業調査事業	H28 ~ H29	トリイ通信施設跡地の跡地利用を図るため、トリイ通信施設跡地「大木・大湾地区」の区画整理事業に向けた施行地区の設定、区画整理設計、事業計画の作成、実施計画の作成を行う。	R3	地権者の合意形成を行い、区画整理事業に向け組合設立の認可を受ける。	-	-

## 後年度・中期目標事業沖縄振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」、「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」、「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
21 読谷村	後年度	地産地消推進を図る生産施設設置事業	H25 ～ H29	年間を通した多様な野菜を安定的に生産できる環境の構築により、地域の消費需要(直売所、ホテル、飲食店など)への対応や、「食と農」を通した地域観光のイメージアップや農業振興を図ることを目的として、JA等が設置する栽培施設の設置費の一部を支援する。	R2	収穫量: 7.69t	収穫量: 6.23t	-
21 読谷村	後年度	(仮称)読谷村パークゴルフ場整備事業	H27 ～ H30	平成24年度に策定された第2次読谷補助飛行場跡地村民センター地区跡地利用計画に基づき、全国からパークゴルフ愛好者を誘客し観光振興を図ると同時に、地域住民の体力増進、高齢者の生きがいの場づくり、駐留軍用地跡地利用に資するため、(仮称)読谷村パークゴルフ場を整備する。	R1	・観光客の年間利用者数 7,340人 ・村民の年間利用者数 7,060人	・観光客の年間利用者数 7,013人 ・村民の年間利用者数 12,274人	○
21 読谷村	後年度	読谷補助飛行場「大木地区」廃棄物処理委託事業	H30	読谷補助飛行場跡地(大木地区)の土地活用を促進するため、不発弾探査により土中から発見された廃棄物の処理を行う。	R5	大木地区の土地区画整理事業の進捗率65%	大木地区の土地区画整理事業の進捗率32%	-
21 読谷村	後年度	沖縄語(しまくとぅば)保存継承事業	H25 ～ R3	沖縄独特の口承文化や歌詞を支えてきた沖縄語の保存継承に寄与するため、生まれ育った地域の沖縄語を調査、整理し、沖縄語に親しめる教材を提供する。	R2	教材の活用により、沖縄語の理解が深まったか(80%以上)を含め、沖縄語の保存継承のあり方をアンケート調査により検証する。	アンケート調査: 未実施	未
21 読谷村	後年度	読谷村農業関係施設機能強化促進事業	H28 ～ H30	地域内農林水産物の利用促進と新たな雇用の創設を図るために、農業関係施設(読谷村農村女性の家)の機能を強化する。	R1	読谷村農村女性の家で加工し配膳した村内農産物の量 1.12t/年 以上	読谷村農村女性の家で加工し配膳した村内農産物の量 0.3t/年	未
22 嘉手納町	後年度	嘉手納町防災情報発信強化事業	H29 ～ R1	災害時において町民及び観光客等の安全の確保を図るため、屋外拡声装置を取り付けた防災無線子局を設置する他、放送室など親局機能を整備して防災無線システムをデジタル化に構築するための実施設計を策定する。	R2	防災無線を活用した避難訓練(1回以上/年)を実施することにより、本事業のあり方について検証する	-	-
22 嘉手納町	後年度	嘉手納町民俗資料室収蔵品活用事業	H30	本町の歴史文化の継承を図るため、嘉手納町民俗資料室収蔵資料をデジタル化し、台帳を作成する。	R1	・データベース化した資料を活用した学習会等の参加人数 40人	・データベース化した資料を活用した学習会等の参加人数 134人	◎

## 後年度・中期目標事業沖縄振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
23 北谷町	後年度	北谷町電子黒板整備事業	H30	学校教育の質の確保や教員のICT機器の習熟を図るため、町内4小学校及び2中学校の普通教室、特別支援教室及び理科室へ電子黒板を整備し、動画、書き込み機能等を活用したわかりやすい授業を実践する。	R1	・児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったか(80%以上)を含め、本事業のあり方を検証する ・教員にアンケートを実施し、ICT機器の習熟度が上がったか(80%以上)を含め、本事業のあり方を検証する	・児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったとの回答 83.2% ・教員にアンケートを実施し、ICT機器の習熟度が上がったとの回答 93.3%	◎
24 北中城村	後年度	アワセゴルフ場周辺まちづくり整備事業	H27 ～ R1	アワセゴルフ場跡地を中心に、返還予定のロウワープラザ地区やその周辺一体が村の観光交流拠点としてまちづくりが行えるよう基本構想の検討を行う。	R2	策定する基本計画において成果を設定する。	未実施	未
24 北中城村	後年度	荻道・大城湧水群周辺環境整備事業	H24 ～ R3	「平成の名水百選」に選ばれた荻道・大城湧水群を新たな観光資源としての活用を図るため、必要な湧水の確保対策に向けた検討及び散策路として整備するための実施設計を行う。	R4	散策路整備により満足度が向上したか(80%以上)を含め、アンケート調査により、本事業のあり方を検証する。	-	-
24 北中城村	後年度	公共施設等エコアクション推進事業	H24 ～ R3	省エネルギー設備の導入による積極的なエコアクションを推進する取り組みとして、村道や自治会管理の既存照明機器等のLED化を実施する。	R1	既存街灯14基のLED化によるCO2排出削減量 5.9t-CO2	CO2排出削減量 5.9t-CO2	◎
24 北中城村	後年度	防災体制整備事業	H30	津波や台風等の大規模自然災害が発生した場合、被災地外からの支援が行き届かないことなどが想定され、被災地内での自立的な供給体制が必要であるため、備蓄食料、生活物資、防災用品の整備を行う。	R1	整備した備蓄品等を活用した防災訓練(3回以上/年)を実施することにより、本事業のあり方について検証する。	整備した備蓄品等を活用した防災訓練:3回/年	◎
24 北中城村	後年度	北中城村地域防災計画等策定事業	H30	沖縄県で想定されるあらゆる災害に対応できる実効性のある地域防災計画を策定するため、現行の地域防災計画の見直しを行う。また、津波災害警戒区域や土砂災害ハザードマップを加えた防災マップを作成し、危険箇所や避難場所、避難経路などを観光客及び住民へ周知することで防災体制を強化する。	R1	策定した地域防災計画を活用した防災訓練(3回以上/年)を実施することにより、本事業のあり方について検証する。	策定した地域防災計画を活用した防災訓練(3回を実施し、本事業のあり方について検証した。	◎
25 中城村	後年度	防災体制整備事業	H26 ～ H30	災害に強く、安心して暮らせる村づくりを推進するため、災害時に村民や観光客等が避難所生活を送ることとなった際に、物資の搬送が開始されるまでの非常食の備蓄整備を行う。また、災害時の効率的・実働的な対応ができるよう災害対策の備品整備等の拡充や防災マップ更新作業を行う。	R1	整備した防災マップ及びソーラー信号機を活用した避難訓練(2回以上/年)を実施することにより、本事業のあり方について検証する。	整備した防災マップ及びソーラー信号機を活用した避難訓練2回/年を実施することにより、本事業のあり方について検証した。	◎

## 後年度・中期目標事業沖縄振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
25 中城村	後年度	防災拠点及び地域交流施設整備事業	H28 ～ H30	災害時等における迅速な対応を行えるよう、防災訓練を行うとともに、地域交流を促進しながら地域一体となった防災への意識を高めるため、防災拠点施設整備を行う。	R1	・整備した防災拠点施設を活用した避難訓練(2回以上/年)を実施することにより、本事業のあり方について検証する。 ・夏祭りや敬老会等、地域交流イベントの参加者数 350人	・整備した防災拠点施設を活用した避難訓練3回/年を実施することにより、本事業のあり方について検証した。 ・夏祭りや敬老会等、地域交流イベントの参加者数 552人	◎
25 中城村	後年度	観光振興地盤強化整備事業	H28 ～ H30	世界遺産「中城城跡」を活用した観光イベントやプロスポーツキャンプ等、村内の観光振興の受入基盤を強化するため、誘客施設である吉の浦公園付近に公共駐車場を整備する。	R1	利便性が確保されたか(80%以上)を含め、当該駐車場のあり方について観光客や村民等へのアンケートで検証する。	当該駐車場のあり方について観光客や村民等へのアンケートで利便性が確保されたとの回答 96.3%	◎
25 中城村	後年度	子育て支援施設機能強化整備事業	H30	児童生徒に向けた各種放課後教室等や遊びの場を提供している村内施設を安全に利用できるよう機能強化整備を実施し、健全に成長できる環境を整える。	R1	・強化整備実施箇所における危険事例の発生件数:0件	強化整備実施箇所における危険事例の発生件数:0件	◎
25 中城村	後年度	文化財悉皆及び中城村沖縄戦・移民調査事業	H25 ～ R3	村民の文化財保護意識高揚と活用を図るため、嘱託調査員による村内文化財の悉皆調査を行い文化財の位置や現況を把握する。 また、中城村内における沖縄戦の経緯などの調査や、中城村の近現代史を語るうえで重要な移民に関する調査について、嘱託調査員による調査を行い、それらの記録を残すことで、中城村の歴史を継承していく。	R1	調査した内容を活用した企画展示会の来場者数:1,500人	調査した内容を活用した企画展示会の来場者数:1,297人	○
25 中城村	後年度	村内文化財整備事業	H28 ～ H30	中城村指定有形民俗文化財「津覇のテラ」の環境整備を行い、人々への周知を図り見学してもらうことで、文化財愛護意識を高め文化財の継承を図るとともに、文化財巡り等で活用を行っていく。	R1	津覇のテラを活用した学習会等の参加者数:50人	津覇のテラを活用した学習会等の参加者数:60人	◎
27 与那原町	後年度	大綱曳倉庫・作業場整備事業	H25 ～ H28	仮設倉庫に一時保管している与那原大綱曳関連備品等の適切な保管、大綱の資材となる藁の保管及び細作り作業場となる倉庫を建設する。	R1	本事業により整備した倉庫について、利用団体へのアンケート調査を実施し、利便性が確保されたかの割合:96% ※効果発現年度のH30は、アンケート調査を未実施のため、翌年度(R1)に調査を実施した。	利用団体へのアンケート調査を実施し、利便性が確保されたかの割合:96% ※効果発現年度のH30は、アンケート調査を未実施のため、翌年度(R1)に調査を実施した。	◎
27 与那原町	後年度	東浜水路観光創造水質浄化整備事業	H29 ～ R3	水路周辺を観光資源として活用するため、本年度は浄化対策アクションプランを策定する。	R2	東浜水路イベントに参加した観光客数440人以上。	-	-



## 後年度・中期目標事業沖縄振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
27 与那原町	後年度	東浜水路散策路照明灯設置事業	H29 ～ H30	観光客の誘客を図る為、散策路照明を設置する為の詳細設計を行う。	R2	東浜水路イベントに参加した観光客数440人以上。	-	-
27 与那原町	後年度	与那原町大型ビジョン活用事業	H29 ～ H30	本町の観光地への誘致を図る為、大型ビジョン整備工事、観光プロモーションビデオ作成を行う。	R1	主要観光施設来場者数90,000人	主要観光施設来場者数124,128人	◎
27 与那原町	後年度	与那原町の文化と歴史の情報発信事業	H30	歴史、文化等の情報を発信する為、映像編集、作成を行う。	R1	・本事業で編集した映像へのアクセス件数3,000件/年 ・町の歴史民俗に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、町民等へのアンケートにより、事業のあり方を検証する。	・映像へのアクセス件数 476件 ・町民等へのアンケートにより、町の歴史民俗に対する理解が深まったかの割合 87%	△
28 南風原町	後年度	南風原町景観計画策定事業	H28 ～ H30	観光地として魅力ある景観形成を図るため、景観計画書及びガイドラインを策定する。	R2	策定した計画について、南風原町景観審議会で大規模開発の適合チェック等(年1回以上)を行うことで、本事業を検証することとする。	条例の施行がR2年度からとなり大規模開発の適合チェック等がR2年度から行われるため、R2年度で改めて本事業の検証を行う。	未
28 南風原町	後年度	地域振興資料館整備事業	H27 ～ H29	地域の文化・芸能を展示、活用するための資料館を整備し、文化・歴史・伝統芸能の保全継承並びに文化資源を活用した地域振興を図る。	R1	年間来館者数2,100人 津嘉山資料館	年間来館者数2,350人 津嘉山資料館	◎
29 渡嘉敷村	後年度	観光情報配信事業	H28 ～ H29	観光客等の利便性を確保するため、観光情報等を港待合所等で効果的に発信できるようにデジタルサイネージを導入、また、予約システムと連動したクレジット決済可能な発券・精算システムを構築する。	R1	観光客等を対象にアンケート調査を実施し、利便性が確保されたか(確保されたとの回答割合80%以上)を含め、本事業のあり方を検証する。	観光客等を対象にアンケート調査を実施し、利便性が確保されたか(確保されたとの回答割合:30.1%)	未
29 渡嘉敷村	後年度	渡嘉敷村観光施設整備事業	H26 ～ R3	観光客等利用者の利便性確保及び誘客を目的に、観光施設等の整備を行う。今年度は渡嘉志久トイレシャワー施設機能強化工事及び多目的広場の機能強化工事を実施する。	R1	・渡嘉志久トイレシャワー施設の整備により、利便性が確保されたか(80%以上)を含め、利用者アンケート調査により当該事業のあり方を検証する。 ・多目的広場施設を利用したイベント来場者数:3,000人以上	・観光施設の整備により、利便性が確保されたかの割合 83.9% ・多目的広場施設を利用したイベント来場者数:430人	△
29 渡嘉敷村	後年度	渡嘉敷村観光危機管理計画策定事業	H30	村内を訪れる観光客への自然災害や人的災害などが発生した際の対応を定めた「渡嘉敷村観光危機管理計画」を策定する。	R1	策定した計画を活用した避難訓練(1回以上/年)を実施することにより、本事業のあり方について検証する。	・策定した計画を活用した避難訓練:1回	◎

## 後年度・中期目標事業沖縄振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
31 粟国村	後年度	環境衛生処理事業	H28 ～ H29	循環型社会の形成を図るため、生ごみ処理機を導入し、生ごみの島内処理体制を構築する。	R1	島内の生ゴミ処理体制が確保されたか(80%以上)を含め、当該施設のあり方をアンケートにより検証する。 ・肯定的な回答 80%(H30年度) 80%(R1年度)	アンケートで島内の生ゴミ処理体制が確保されたとの回答 83%	◎
31 粟国村	後年度	景観計画策定事業	H28 ～ H30	景観計画に基づいた、住民にわかりやすい景観むらづくりガイドラインを作成し、自然や歴史等風景を生かした魅力的な観光地としての景観形成を図るため、住民にわかりやすいガイドラインを作成する。	R2	魅力的な観光地としての景観形成を図られたか(80%以上)を含め、観光客や村民等へのアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	条例制定が令和2年3月であったことから当年度はアンケート調査を見送り令和2年度に実施することとした。	未
31 粟国村	後年度	粟国村地域防災計画整備事業	H30	災害時において村民及び観光客等の安全を確保するため、粟国村地域防災計画の見直し等を行う。	R1	・整備した地域防災計画、業務継続計画及び避難勧告マニュアル等を活用した避難訓練(1回以上/年)を実施することにより、計画・マニュアルについて検証する。	整備した地域防災計画、業務継続計画及び避難勧告マニュアル等を活用した避難訓練を年1回実施した。	◎
31 粟国村	後年度	照喜名原地区整備事業	H27 ～ H30	粟国島を訪れる観光客の受け入れ基盤を強化するため、「ウーグの浜」を含む照喜名原地区の整備を行う。	R2	照喜名原地区を訪れる観光入域客数: 約1300人	照喜名原地区の整備が未完成により、調査未実施	未
32 渡名喜村	後年度	渡名喜村急患搬送車整備事業	H30	急患搬送車両の導入することで、地域住民や観光客の安全性の確保を図る。	R1	家族や付添人に対して、安全性が確保されていたか(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方を検証する。	家族や付添人に対するアンケートにより、安全性が確保されていたとの回答割合:94.7%	◎
33 南大東村	後年度	南大東村テリハボク高度活用プロジェクト事業	H29 ～ H30	南大東島では、テリハボクは古くから防風林・保安林・農地防風林として植栽され台風等の風や塩害から島を守ると共に島の景観にも溶け込んでいる重要な樹木である。本事業では、テリハボクを資源(オイルや薬用油)とした事業の実施につなげるため、活用方法の調査を行う。	R1	テリハボクの種子を活用した事業を実施しているか確認した後、すみやかに事業化につなげる。	令和元年度に商品(オイル、クリーム)が完成し、試験販売を開始した。 R1年度より、本事業は沖縄離島活性化推進事業にて商品の更なる改善、R2年度より工場の整備等を行う。	◎

## 後年度・中期目標事業沖縄振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
33 南大東村	後年度	星野洞機能強化整備事業	H29	星野洞は、神秘的な空間が広がる島一番の観光施設であるが、洞内の照明施設は、鍾乳石に悪影響を及ぼす照明であることから、全てをLED照明に取替えて学術的にも貴重な鍾乳石の環境保全と観光振興を図る。併せて、入洞扉を強化整備すると共に専門家への鍾乳洞診断を委託する等、洞窟全体の機能強化を図る。	R3	年間入洞者数2,400人	年間入洞者数2,062人	-
33 南大東村	後年度	南大東村防災体制強化事業	H29	本村の地域特性から大規模な自然災害に備え避難者等に対し、防災備蓄品等を供給できるよう整備する。又、海岸沿いの人工プール進入路入り口にゲートを設けて、住民や来島者の安全を確保し防災体制を強化する。	R1	海岸における水難事故件数0件	海岸における水難事故件数1件	未
34 北大東村	後年度	北大東村コミュニティ施設周辺整備事業	H27 ～ H30	北大東村内で毎年行われる祭り行事において、県内・県外から、多くの関係者や観光客が訪れているため、コミュニティ施設周辺整備を行い、歴史文化継承及び観光誘客を図る。	R1	施設を利用した祭りの来場者数 368人以上	施設を利用した祭りの来場者数 696人	◎
34 北大東村	後年度	農業用水路防災・減災事業	H30	台風等の豪雨による圃場等の洗掘及び干ばつによるさとうきび等への被害を防ぎ、安定した生産を図るため、農業用排水路の整備に向けた概略設計を行う。	R6	さとうきび生産量 15,734トン以上	-	-
34 北大東村	後年度	北大東小中学校ランチルーム整備事業	H29	北大東小中学校は児童生徒数約60名の小規模校であり、昭和58年度完全給食開始以来、全校生徒・教職員が調理場併設のランチルームで給食を実施している。地域特有の教育観光構築に向け、児童生徒の豊かな心を育み、教育の資質向上へ繋げる為、運営システムの改善に伴い、改築整備を行う。	R1	・ランチルームの設計完了 ・ランチルーム監理・工事完了	安心安全な給食運営・児童生徒・教職員のコミュニケーション向上と食育向上が図られたかの割合:100%	◎
35 伊平屋村	後年度	海浜公園植栽及び緑化体制整備事業	H24 ～ H30	魅力的な観光地としての景観形成を図るため、海浜公園内の植栽管理及び緑化推進体制の整備を行う。	R3	観光地として魅力的な景観であると感じるか(80%以上)を含め、米崎海浜公園の景観形成のあり方についてアンケート調査により検証する。	-	-
36 伊是名村	後年度	観光施設整備事業	H29 ～ H30	観光誘客を図るため、本村の観光スポットである二見ヶ浦海岸一望できる展望台の整備を行う。	R1	入域観光客数36,464人	入域観光客数35,752人	○

## 後年度・中期目標事業沖繩振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」、「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」、「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
36 伊是名村	後年度	伊是名村救急体制強化事業	H30	災害時の住民や観光客の安全を確保するため、緊急車両(消防車)を整備する。	R1	消防団訓練の実施 12回以上/年	消防団訓練の実施 14回/年	◎
37 久米島町	後年度	久米島観光リゾート開発基本計画策定事業(久米島町観光振興基本計画策定事業)	H29 ～ H30	観光産業の現況及び今後の動向を踏まえ、環境にも配慮した持続可能なリゾート開発基本計画及び「第2次久米島町観光振興基本計画」を策定し、観光誘客を図る。	R1	・リゾート開発基本計画に基づいた施策の実施 ・本事業で策定する基本計画を基に、観光振興を目的とした事業の実施につなげる。	・リゾート開発基本計画に基づいた施策の実施 ・本事業で策定する基本計画を基に、観光振興を目的とした事業の実施。	◎
39 多良間村	後年度	多良間村観光危機管理計画策定事業	H30	村を訪れる観光客の安全を確保するため、自然災害や人的災害などが発生した際の対応を定めた「多良間村観光危機管理計画」を策定する。	R2	策定した観光危機管理計画を活用した避難訓練(年1回以上)を実施することにより、当該計画について検証する。	策定した観光危機管理計画を活用した避難訓練(年1回以上)を実施することにより、当該計画について検証:未実施	未
39 多良間村	後年度	教育関連施設省エネ推進事業	H29 ～ H30	教育関連施設に環境負荷の少ないLED照明を整備し、二酸化炭素排出量の抑制を図る。	R1	二酸化炭素排出削減量 62,264kg	53,291kg	○
39 多良間村	後年度	多良間新製糖工場整備事業	H27 ～ H29	本村の基幹産業であるさとうきび・糖業の安定した生産体制を確立し、継続的なさとうきび・糖業の振興を図るため、含みつき製糖施設を整備する。	R1	製糖期間におけるさとうきびの入可能割合100%(受入可能割合=農家によるさとうきび生産量のうち、製糖工場が受入できた割合)	100%	◎
39 多良間村	後年度	水納島航路船舶建造事業	H29	水納航路は、建造後25年を経過した不定期航路として水納島⇄多良間島間を運航。他に交通手段は無く老朽化しており村所有の船舶建造で連絡船の整備を図る。	R1	航行可能な海象条件下における船舶運航需要(水納島⇄多良間島)に対応できた割合100%	100%	◎
40 竹富町	後年度	鳩間島野外ステージ周辺環境整備事業	H28 ～ H29	鳩間島に整備されている、鳩間島野外ステージ周辺に、出演者等控室及び公衆トイレを整備し、当該施設の利便性向上及び鳩間島を訪れる観光客や各種イベント使用時の地域住民等の観光満足度等向上を図る	R1	出演者及び来場者に利便性が確保されたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する。	出演者及び来場者へのアンケートで利便性が確保されたとの回答割合:100%	◎
40 竹富町	後年度	西表浦内観光施設整備事業	H24 ～ H31	西表島の大自然を、多くの観光客に味わってもらいながら、安心・安全で快適な観光ができることを目的とし、これまでに以上に誘客を図っていく上で遊歩道等の整備を行う。	R1	観光客へのアンケートで利便性が確保されたか(80%以上)を含め、当該施設のあり方を検証する。	観光客へのアンケートで利便性が確保されたとの回答割合:89%	◎

## 後年度・中期目標事業沖縄振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
40 竹富町	後年度	ピサダ道保存整備事業	H26 ～ H29	西表島祖納集落西側に隣接する「ピサダ道」は、現在も当時の石段がその姿を残す町指定史跡である。太平洋戦争時に大きく損傷した箇所についての復元整備要望が地域住民より上がっており、史跡復元の整備工事を実施する。	R1	観光客・地域住民に魅力が向上したかを(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する。	観光客・地域住民へのアンケートで魅力が向上したとの回答割合:83.3%	◎
40 竹富町	後年度	竹富島観光関連事業	H27 ～ H28	本町の主要観光地である竹富島カイジ浜の滞在時間の延伸及び訪れた観光客の利便性を図るため、隣接地に休憩所等を整備を実施し、観光満足度の向上を図る。	R1	観光客へのアンケートで利便性が確保されたか(80%以上)を含め、当該施設のあり方を検証する。	観光客へのアンケートで利便性が確保されたとの回答割合:100%	◎
40 竹富町	後年度	ムシャーマ公園整備事業	H27 ～ H28	ムシャーマ公園は、島の伝統行事「ムシャーマ」の開催会場として、多くの地域住民及び観光客等が利用する場所である。また、祭日以外も多くの観光客の立ち寄る場所となっているが、公衆トイレ及び休憩所等がなく、多くの方々が不便をきたしている。このため公園内に、公衆トイレ及び休憩所等を整備しさらなる観光満足度等向上を図る。	R1	観光客・地域住民へのアンケートで利便性が確保されたか(80%以上)を含め、当該施設のあり方を検証する。	観光客・地域住民へのアンケートで利便性が確保されたとの回答割合:63%	○
40 竹富町	後年度	小浜島結願祭会場整備事業	H27 ～ H28	小浜島の結願祭は、国の重要無形民俗文化財の指定を受けており、毎年多くの観光客及び地域住民が参加している、しかし、会場にある公衆トイレのお老朽化により、結願祭に参加する観光客及び地域住民に不便をきたしている。多くの方々の利便性等を向上を図るためにも会場内に公衆トイレの整備を行なう。	R1	観光客・地域住民へのアンケートで利便性が確保されたか(80%以上)を含め、当該施設のあり方を検証する。	観光客・地域住民へのアンケートで利便性が確保されたとの回答割合:66.7%	○
40 竹富町	後年度	竹富町キャッシュレス環境整備促進事業	H28 ～ H29	観光客等が宿泊施設や観光地での買物等の際に、手持ち現金の不足により消費機会を消失していることから、電子マネー、クレジットカード等のキャッシュレス決済で支払が行えるよう、町内事業所における決済環境の整備を推進し、観光客等の利便性向上を図る。	R1	設置した事業所、観光客に対して利便性が確保されたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する。	設置した事業所、観光客へのアンケートで利便性が確保されたとの回答割合:17%	未
40 竹富町	後年度	文化財説明板整備事業	H27 ～ H31	町内に点在する指定文化財等についての認知度を高めてもらうため、文化財説明文を多言語(日本語、英語、中国語)にて掲示し、増加する国内外からの観光客の観光満足度向上を図る。	R1	本事業について、外国人を含む観光客へのアンケート調査を実施し、利便性が確保されたか(80%以上)を含め、本事業のあり方を検証する。	外国人を含む観光客へのアンケートで利便性が確保されたとの回答割合:76.5%	○
40 竹富町	後年度	竹富町救急患者輸送車両(救急車)導入事業	H30	緊急車両(救急車)を導入し、町民及び観光客の安全性の確保を図る。	R1	家族や付添人に対して、安全性が確保されていたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する。	家族や付添人へのアンケートで安全性が確保されていたとの回答割合:100%	◎

## 後年度・中期目標事業沖縄振興特別推進交付金事業成果一覧

【凡例】  
 「達成」…「◎」「概ね達成」…「○」  
 「一部達成」…「△」「未達成」…「未」  
 「R2年度以降に効果発現する事業」…「-」

市町村名	検証年度	事業名	計画期間	事業内容	効果発現年度	成果目標(指標)	R1年度成果実績(指標)	評価
41 与那国町	後年度	与那国町多言語観光案内サイン整備事業	H29 ～ H30	既存の観光案内版は、老朽化が激しく観光客や来島者の利用に支障をきたしている現状にあることから、景観に配慮した観光案内版への更新を実施すると共に、インバウンドへの対応として多言語での整備を実施する。	R1	利便性が確保されたか(80%以上)を含め、多言語案内板の整備について観光客等へのアンケートで検証する。	利便性が確保されたか:81.0%	◎
41 与那国町	後年度	与那国方言保存継承支援事業	H24 ～ H30	2009年UNESCOに消滅危機言語として登録された与那国語の記録保存と伝承、再活性化を目的とし、主として辞書作成を行う。並行して、保存継承のための企画を展開して衰退しつつある言語の使用を推奨する。	R1	与那国語辞典を活用した授業や学習会等により、与那国語への理解が深まったか(80%以上)を含め、児童生徒へのアンケートにより、本事業のあり方について検証する。	与那国語辞典を活用した授業や学習会等により、与那国語への理解が深まったか:87.5%	◎
41 与那国町	後年度	与那国町古民家活用型定住促進事業	H26 ～ H30	平成26年度与那国町古民家活用型定住促進モデル実施計画の成果に基づき、古民家解体並びに解体古材資源活用マニュアルの作成を実施し、町内建設事業者の関与を促進すべく、技能研修機会を事業に盛り込む。古材を重視した耐震補強、部材修理等を含め、古い建築技術と現代の建築技術を融合させた設計監理業務、定住促進住宅整備工事を実施する。	R2	島外からの体験型住宅入居人数 3人	島外からの体験型住宅入居人数 2人	-